

上富岡倶楽部

2020.3
vol.9

長岡技術科学大学同窓会報

先人からの宝物を活かし、 新しきを構築

理事・副学長 鎌土 重晴



私は愛媛県の新居浜高専を卒業し、兄弟校である豊橋技科大へ第1期生として編入学し、大学院修士課程を修了後津山高専に奉職しました。その後、豊橋技科大で論文博士号を取得し、本学に助手として赴任し、現在は東学長のもと教育研究企画・評価・高専連携担当の理事をしています。豊橋技科大在学中には本学初代学長のご子息(本学6代目学長小島陽氏の同級生、小島陽先生は私のボス)が教員として立上げ時からおられ、私の所属した生産システム工学系の3年生の担任をされていました。そのため、川上正光初代本学学長の著書「工学と独創」を紹介され、その中に本学の理念「技学」についても解説されており、改めて技術科学大学の設立の趣旨を噛みしめています。今も私の研究室の書棚にあります。

本学は1976年10月に新構想の大学として開学し、新教育研究システムとして、国内では初めてとなる学部4年の大学院進学者に必修科目として企業で実施する5カ月に及ぶ長期インターンシップ「実務訓練」を導入し、1981年には企業との共同研究・連携教育を推進するための「技術開発センター」が設置されました。いずれも当時ではめずらしい産学共同研究および産学連携教育の両方を担う取組です。さらに、1986年には留学生の受入を開始し、1990年には海外実務訓練も始まり、1994年には社会人留学生の受入、2003年から国内では初めて海外大学とのツィニングプログラム制度を導入し、グローバル化を推し進めてきました。それらの成果を活かした取組として、2014年にはスーパーグローバル大学創成支援事業に採択されるに至っています。本事業では高専一技大教育研究モデルおよび産学連携モデルを次世代戦略的地域に展開するための「GIGAKU 教育研究ネットワーク」および「GIGAKU テクノパークネットワーク」から成るグローバル産学官融合キャンパスを9ヶ国12拠点にまで拡大し、留学生・学生・教員・技術者・研究者が共に学び、研究開発を推進する場を提供しています。それらの取組を通じて、2018年にはSDGsに関連する革新的な取組の模範大学として国連アカデミック・インパクトSDG9ハブ大学の任命を受けるとともに、SDGs重視の考えを取り入れた工学教育プログラム「技学SDGインスティテュート」がユネスコチェアプログラム認定を受けました。

一方で、両技科大一高専連携の強化にも努め、2012年～2017年には文部科学省国立大学改革強化推進事業「三機関が連携・協働した教育改革」にて社会に必要とされる実践的グローバル技術者育成を目指して、全国の51国立高等専門学校を含む三機関を高速の独立回線GI-netで結び、効率的で多様な教育・研究活動の連携・協働を推進してきました。その例として

鹿児島県長島町にて高専と連携して馬鈴薯の種イモ栽培と自然エネルギーを活用した貯蔵に取組み、地域活性化に貢献しています。

最近では、上述の先人のオリジニティ溢れる先導的な取組みの成果を活かし、2018年に卓越大学院プログラム「グローバル超実践ルート テクノロジープログラム」に採択されました。本プログラムは、大学院5年一貫制博士課程にて、本学が世界レベルの研究力を有する「材料科学」と「電力工学(具体的には制御工学とパワーエレクトロニクス)」をコアとしたすべての産業界の根幹をなす技術(ルートテクノロジー)を「情報工学」の素養に基づき革新する知のプロフェッショナル人材(ルートテクノロジー人材)を育成するものです。2年目と4年目に海外リサーチインターンシップと企業におけるプロジェクトリーダー実習を受講し、『自ら学ぶ「アクティブラーニング」を超え、チームをリードし、問題解決を実証する体験を通じて、失敗をしつつもそれを克服する過程を世界中の現場で積むこと』を経験させます。特に、挫折を克服した経験を持たせることが極めて重要で、単に長期に海外や企業に派遣するのではなく、一度派遣し、この反省点を生かして学び直し、更にもう一度派遣し、成功体験を持たせる「反復実習」を行います。さらに、2019年には文部科学省国立大学経営改革促進事業「技科大・高専連携に基づく地域産学官金協創プラットフォームの構築と 全国展開による自立的な財政基盤・マネジメントの強化」が採択され、両技科大と全国高専の教職員が地域連携プラットフォームの構築により強力に連携し、高専の立地する産業集積地の活性化を促すことにより経営改革を図ろうというものです。その中には、高専のみならず、その地域の企業や技術者を対象としたリカレント教育、セミナー等の開催や、遠隔・半遠隔が可能な高度な分析機器の共用化を全国展開し、技大-高専連携共同研究の推進、高度分析技術者の育成を目指しています。卒業生・修了生の皆様も是非ともご参加頂き、ご意見を賜りたく思っています。

時代は少子化や人生100年時代を迎えようとしています。本学でも優れた留学生の更なる受入増と産業界への貢献、女性教員・女子学生増、社会人リカレント教育の推進、超情報化時代到来に対応する教育研究システムの再構築等、課題は山積しています。本学のモットーであるVOSの精神と技学の理念を今一度再認識し、胸に刻み、邁進する所存です。卒業生・修了生の皆様の益々の活躍を期待するとともに、今後もご意見やご支援を賜りたく、お願い申し上げます。

「第8回 復活！開学記念マラソン大会」を開催

大会報告

同窓会理事 **芳賀 仁** (エネルギー・環境工学専攻 平成16年3月修了)

同窓会の周知と地域交流を主な目的として、平成24年から「復活！開学記念マラソン大会」を開催しています。第8回大会を令和元年9月28日(土)に行いました。すっかり同窓会の行事として定着していると思います。

マラソン競技は親子参加、小学生を対象にした2kmコース。学生、一般向けの5km、10kmコースをそれぞれ技大周辺に設けて実施しています。参加者のご家族やご友人にも楽しんでいただけるよう、体育保健センター前にふわふわ遊具や縁日コーナーを用意して無料で開放しています。長岡技術科学大学からの後援、内田エネルギー科学振興財団からの助成も受けています。最近では、スタッフ用のポロシャツ、ゼッケン、参加賞のポストカード、記念タオルなどをオリジナルで製作して配布しています。手作り感満載なところも本イベントの特徴となっています。

大会運営は主に同窓会役員と、学生、教職員のボランティアで成り立っています。コース上には警備会社による誘導、ボランティアの誘導員、給水ポイント(3か所)をそれぞれ配置して安全確保しています。コース沿道に、のぼり、立て看板を設置して大会を盛り上げています。年々、地域からの参加が増えています。今回は約150名の参加をいただきました。

当日は、鎌土理事副学長、大石理事副学長にお越しいただき開会式で激励のお言葉をいただきました。鎌土先生によるスターター号砲のもと一斉スタートしました。登り下りのきついコースでしたが、全員が無事に完走を成し遂げました。マラソンを通じて、苦楽を共にした仲間と一緒に、お世話になった母校周辺や懐かしい近隣地域を走り、汗を流して、お互いの健康を喜び合うこともできたと思います。ゴール後は、用意した軽食(おにぎり、トン汁)を食しながら談笑している爽やかな光景が今回も印象的でした。表彰式では、各コースの上位入賞者に賞状と副賞が渡されました。また、参加者全員に参加賞も配られました。第8回を迎えて、地域からの常連さん、大会新記録、連続優勝など興味深いデータも見られるようになりました。マラソン大会後に第3食堂で

懇親会を行いました。参加者、ボランティア、同窓会役員が参加して親睦を深められたと思います。

マラソン大会と懇親会を通じて、同窓会と在学生、教職員、旧教職員そして地域の方々との交流と親睦を大いに深められたと思います。マラソン大会を継続して実施することで同窓会の周知にも繋がっていると思います。

卒業生の皆様もぜひ、参加してみませんか。

次回(第9回)は9月26日(土)に実施します！

種目：

2kmコース(親子、小学生対象)

5km、10kmコース(中学生以上対象)

・スタッフ協力

80名(第7回:79名、第6回:75名、第5回:75名、第4回:77名、第3回:74名、第2回:84名、第1回:90名)

・ランナー

2km 104名(第7回:116名、第6回:75名、第5回:44名、第4回:56名、第3回:52名、第2回:17名、第1回:23名)

5km 59名(第7回:51名、第6回:75名、第5回:87名、第4回:53名、第3回:43名、第2回:64名、第1回:60名)

10km 93名(第7回:79名、第6回:78名、第5回:86名、第4回:83名、第3回:84名、第2回:106名、第1回:59名)

大会成績

2km

1位 小越 心温(地域)8' 17"

2位 徳橋 光海(地域)8' 25"

3位 大岡 篤弥(地域)8' 46"

5km 男子

1位 西方 太地(地域)

16' 38(連覇)

2位 星 凌翔(中2)

19' 35"

3位 小林 雅也(B2)

20' 27"

5km 女子

1位 西方 愛恵(地域)

19' 56"

2位 兵藤 桃香(地域)

22' 28"

3位 田中 亜希子(地域)

23' 14"

10km 男子

1位 小林 逸郎(地域)

32' 34(連覇)

2位 酒井 教行(M2)

39' 20"

3位 石川 大貴(M1)

40' 55"

10km 女子

1位 大野 彩佳(地域)

43' 08"

2位 伊丹 敬子(地域)

47' 13"

3位 本多 美樹(地域)

48' 56"



親しい人たちに再び会うために走ろう

グエン タン ソン

(釧路工業高等専門学校(材料工学専攻 平成28年度8月修了))

子供頃から、スポーツが好きでした。特にサッカーのような脚のスピードを多く使ったスポーツが好きでした。最初はマラソンが好きではありませんでした。なぜなら、それは個人的なものであり、サッカーのようなチームワークほど楽しくないと思ったからです。しかし、それは、伝説的なマラソンの戦いの物語を読む前のことでした。勝利を発信するために戦場から首都まで42キロずつと走った兵士の犠牲をとて感動しました。その時から、私の一生に最低でも一回で42キロの距離を完走できると夢を持ってきました。

日本に来た後、修士2年の時に長岡技科大のマラソンについて知りました。次の4年間で、毎年ボランティアランナーとして、このマラソン大会に参加しました。マラソンは私に多くの良いこと：友達、健康、精神、特に喜びを与えます。ほぼ2年前、釧路に引越してから、ここで毎年マラソンも開催されることを知って嬉しかったです。それから、毎年釧路マラソン大会にも参加してきました。

昨年10月、母校に戻る際に、先生たち、友達、後輩たちと一緒にマラソンに参加することができました。釧路でのランニングも楽しいですが、多くの友人まだいないから、長岡で親しい人たちに走るととき、故郷に帰るような幸せを感じます。忘れない学生の時に戻りたいです。マラソンを走ることがこのようなどとも楽しいとは思わなかった。これからも続け、毎週健康を改善する、親しい人たちに再び会うために走ろうと思います。以前、速度を目標として走ったが、現在は自分のリミットを超えし、もっと長い距離を着目として走ります。

ランニングを実行すると、体力だけでなく精神も非常に強くなる。三浦しんの名作「風が強く吹いている」における清瀬ハイジが言ったように「長距離選手に対する、一番の褒め言葉がなにかわかるか？強いだよ」。これも、私から長岡技科大マラソン大会に参加した皆様へ最後の伝いたいメッセージ：「あなたは本当に強いですよ」でございます。



友達と出発する前の記念写真
(私は左から二人目)

マラソン大会の感想

石田 孝弥

(2018年3月 環境社会基盤工学専攻修了)

この度は、同窓会会報に執筆する機会をいただき誠にありがとうございます。今回は私が「復活！開学記念マラソン大会」(技大マラソン)に参加した感想をお書きいたします。

技大マラソンの第1回目は私が長岡技術科学大学に入学した平成24年に開催されました。技大マラソンを知るきっかけとなったのは、構内の売店前に大きく掲げられていたマラソン大会の案内ポスターです。それには参加費500円と書いてあって安い！と思ったのと同時にいつか参加してみようかなという気持ちも芽生え、第3回技大マラソンの時に初めて10kmコースに参加しました。私は中学から高校まで陸上競技をやっていたため多少走れる力はあると思っていましたが、実際走ってみると坂道のアップダウンが激しいコースに何度も心が折れそうになりました。しかし苦しくて辛い気持ちのなか、地域の方々の応援が励みになり頑張ることができました。そしてゴールした後、暖かい豚汁や賞状など他にもたくさんの参加賞をいただいて、参加費500円とは思えないほどのおもてなしに感動した結果また参加したいと思うようになりました。

私はこの第3回技大マラソンに参加したことが引き金となり、その後5回目からは連続で参加しています。第8回目では完走タイムがかなり落ちてしまったため次回はリベンジしたいです。初めての技大マラソンでは単独での参加で少し心細い気持ちでしたが、第5回目からは研究室の方や先生方と一緒に走るようになったのが私の楽しみの一つとなりました。一緒に走る人がいるというのはとても心強いですし、技大マラソンは様々な方と交流できる貴重なイベントです。有意義な時間を過ごせると思うので皆さんもぜひ参加してみてくださいはいかがでしょうか。



老人のランニング人生

志田 信男 (長岡ランナーズ会長)

38歳から走り始めました。いま73歳なので35年経ったわけですが。

当初、腰を痛めるなど体力の衰えを感じ、トレーニングの必要性を感じていた中でランニングに出会いました。10年ほどは個人のトレーニング以外に日曜日には仲間と長距離走を行い、行先で酒を飲み昼寝をして帰る、といったことが常でした。

50歳前に職場を変えてからは練習時間が取れなくなり、通勤の移動にランニングを組み込みました。それ以降、トレーニングだけを目的としたランニングはしていません。定年後も目的地へ行くための手段として走っています。(走るために目的地を作ると言った方が実態に近いかも。)

走り始めた頃、走った後は1日中体が暖かく、細胞が活性化していると感じました。マラソンは中年以降のスポーツです。継続していればほとんどの人が、とってもしんどくない長い距離を走れるようになる。これが若返ったと勘違いさせてくれてうれしいです。

毎年記録は落ちる一方ですが、此処まで来ると何時まで走れるのかですね。

私は長岡高専の1期生で(当然技大はまだなかった)1年おきに同級会を開いています。現状で見たと、私が一番体力がありそうです。これも親とランニングのおかげではないかと感謝しています。

技大マラソン大会では楽しく走らせてもらいました。初めての参加です。距離が短いのが走らなかつた理由ですね。いつもハーフかフルの種目だけ走っていました。ですが、最近は完走自体がしんどくなってきました。これから走れる間は参加させてもらいます。

長岡技術科学大学が企業と国から高い評価を得ており、新興国・途上国の教育支援に貢献されていること。長岡市民として誇らしく感じています。

(私は長岡ランナーズに属しており、当クラブでも毎年9月中旬にマラソン大会を開いています。市営スキー場をスタート・ゴールとし、12キロと30キロの2種目です。参加あるいは協力をお待ちしております。)



【告知】第9回 復活！開学記念 技大マラソン大会 開催日決定

これまで多くの皆様からご参加、ご協力をいただいているマラソン大会を今年も開催します。

詳細が決まり次第、ホームページに情報を掲載しますので、奮ってご参加ください。

日時 2020年9月26日(土) 10:00スタート(予定) 詳細 Comming soon

同窓の集い開催報告

長岡技術科学大学「同窓の集い、2019東京編」

同窓会顧問 宮下 孝洋 (上越市勤務:材料開発工学専攻、1期生)



卒業して初めて開催された「同窓の集い2019東京編」に参集した卒業生と名誉教授ならびに関係する方々の総数は200名を超えた。しかしながら、約40年ぶりに再会した同級生は極一部を除いて、胸の名札を確認しないと皆目分からなかった。まるで浦島太郎のような心境であり、先生方も一様に年を重ねて、やっとの思いで会場までお越しいただいた先生もおられた。過ぎ去った時は戻らないが、やはりもう少し早く同窓の集いを開催すればよかったと反省することしきりであった。それでも、互いに話をしていると昔の顔に戻ってくるから不思議である。雪深い長岡で共に過ごした仲間が一堂に集まって、夢のような時間を過ごすことができた。ご多忙にも拘らず、遠方から参集された先生方と同窓の皆様方、そして準備に奔走された磯部会長をはじめとする同窓会役員諸氏ならびに同会長の奥様とご家族にも心より感謝を申し上げます。ありがとうございました。

今回の同窓の集いは、北九州高専の入江司先生(創造設計工学専攻、1期生)の「1~4期生で東京に集まろう!」という発案がなかったら実現しなかった。その後、入江先生を交えた同窓会役員による理事会で、折角なので大学事務局とも連携して少し幅を広げて開催できないかと、約1年前から検討を重ねてきた。他方、大学で2017年と2018年の9月に開催したホームカミングデーでは、多くの同窓生、在校生、教職員OB、教職員等へも参加を呼び掛けたが、卒業生の総数に対して集まった同窓生の数はほんの僅かであった。自分が卒業した母校に愛着をもたない卒業生は殆どいないと思われるので、何らかの都合で期待値を越えることができなかったに違いない。それが何なのかは分からないが、開催時期、場所、企画内容などが起因しているのだろう。ということもあって、東京であれば集まりも良いのではないかとということで、今回は2018年1月に発足した大学の校友会(基金・卒業生室)とも連携して開催の運びとなった。

開催日は11月23日(土曜日、勤労感謝の日)、場所は募集人数等によって二転、三転したが、最終的にホテルグランドパレス(千代田区飯田橋)に決まった。当日の天候は生憎の雨、それも土砂降りの雨だったので、足元が悪く参加者には気の毒な思いをさせてしまった。重ねて、同窓の集いの前に、何かせねばと同窓有志による「皇居一周ウォーキング」を企画したものの、集合場所である大村益次郎像(靖国神社境内)の前で集合記念写真を撮影して、悪天候を理由にその場で解散とした。企画した責任もあるので、自分だけでもと皇居を中心に時計回りに(ジョギングルールでは反時計回りが原則)約1時間かけて一周、ビショビショの服と靴を神保町のランステ(ランナーステーション:皇居周辺に複数ある簡易シャワー&ロッカールーム)で着替

えて、グランドパレスに向かった。会場近くの地下鉄九段下の駅で、電車を降りて直ぐに建設1期の谷倉君に偶然出会った。彼とは写真部と釣り部で一緒に遊んだ仲であり、卒業後も何度か一緒に直江津沖の真鯛狙いで釣りしているの、互いに顔は良く分かる。

会場に着くと、既に多くの同窓の面々が集まっていて、互いに懐かしそうに声を掛け合っていた。今回の発起人の一人でもある沼津高専の西田先生(機械システム専攻、1期生)と入江先生のご提案もあって、飲んで騒ぐだけでは勿体ないからその前に意見交換しようということで、別室に集まり「情報交換会」が開催された。司会は入江先生にお任せして、磯部会長と中出副学長の挨拶のあと、同窓会の現状報告と校友会の紹介ならびに課題等の提起がなされた。

続いて、懇親会場に移動してまずは全員で記念写真撮影(太刀川写真館)、同窓会長ならびに東学長のご挨拶、来賓祝辞と乾杯のご発声のあと賑やかな懇談となった。途中、専攻や年代別の代表等による思い出話や挨拶などを挟みながら和やかに進行して、あつという間に終宴を迎えた。最後は、ご指名により僭越ながら私の怪しいジャンプ3本締めで閉会となり皆さん名残惜しそうに其々の二次会へと向かった。

最後に、悪天候の為に中止とはなったが、皇居一周ウォーキングの集合場所とした大村益次郎(適塾~村医者~討幕軍総司令官~近代兵制の創始者)の像には意味がある。司馬遼太郎の「花神」をご一読いただければその一端をご理解いただけるかもしれない。「花神」とは?古来中国の言葉で「花咲か爺さん」の事を言う。其々の時代の流れ(歴史)において、花を咲かせる人を目指す。初代川上学長の提唱された建学の精神V O Sにはそういった思いが込められているような気がする。同窓の集い、形はどうあれまた皆で賑やかに集まれることを老後の楽しみとしたい。開催にご尽力頂いた皆様に、重ねて心より厚く御礼を申し上げます。



東京編の思い出

ヤマハ株式会社 電子デバイス事業部 技術部 村松 利彦 (電子機器工学課程3期卒業)

私が、新設校だった長岡技術科学大学に1年次入学して以来、40年以上の歳月が経った昨年11月23日、「同窓会の集い東京編」が同窓会事務局や顧問の方々のご尽力と熱意によって開催されました。

また同時開催イベント

- ・皇居周辺ウォーキング 午前10時スタート
- ・1期生 宮下孝洋先輩招集 雨天参加自由
- ・集合場所:靖国神社の大山益次郎銅像前
- ・お互いの顔が判らない場合の目印に黄色の物を持参

の案内もいただき、両方に参加してきました。

当日はあいにくの土砂降りでしたが、雨天中止ではなくあえて雨天参加自由のウォーキングであり、先輩方にVOS精神で遅れをとってはならぬと思い、スタート時間15分前には靖国神社の集合場所に到着した。しかしながら土砂降りの集合場所にいたのは大山益次郎先生の銅像のみだった。しばらくすると「おーい、村松君」と呼ばれ宮下さん、同窓会会長の磯部さんら数人が大山益次郎先生に続いて集まってきた。顔が判らない場合の黄色目印は不要だった。

ところがやっぱり土砂降りである、雨は激しくなりウォーキングは集合場所で自由解散、自由継続となった。しかし雨天にかかわらず参加をいとわない同窓の皆さんとここで会えたのが嬉しかった。新設開校時の本学キャンパスは真っ新で最新の実験設備に満ちていたと思われるかも知れないが、当時のキャンパスは工事現場に講義棟と宿舎が建った状態で道も整備途中、雨が降ると宿舎から講義棟までの工事現場をゴム長靴で泥にまみれて通っていた。実験も装置の手作りから始めた学生が多く、多少の悪環境ではめげないのだ。



ウォーキング集合場所の
大山益次郎銅像
Wikipediaより引用

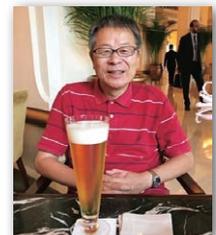
午後からの同窓の集いでは、当時お世話になった先生や学生宿舎を共にした先輩方200名以上が参加し、1年次の必須科目で単位の取得が手強かった図学を教えていただいた丸山先生にも講義時の楽しいお話を伺えました。特に、会場に特別手配された新潟の地酒50種類が好評で40年の時間差を無くしていたようです。

今回の集いで、大学初期の卒業証書が小千谷縮表装と小国和紙仕上げで有難いと話題になりましたが、初期卒業証書には川上正光初代学長の卒業生におくる言葉が和紙に書いて添えられています。

“たった一度しかない一生を、たった一人しかいない自分を、ほんとうに生かすことが出来なかったら、人間に生まれてきた甲斐がないじゃないか 有三”(卒業証書原文)

この卒業生におくる言葉を座右の銘として書き留めてはいませんが、心の中にずっと残っていて、自分が現在の会社に転職した時、後にシリコンバレー駐在を命じられた時など人生の転換点で、自分の背中を後押ししてくれた言葉です。中身も有難い卒業証書でした。

本大学が全国の高専や高校から学生を受入る特性のため、1期入学生から出身地は、北は北海道から南は沖縄までと広く、卒業生は全国に広がっています。今回同窓の集いを、大学と在住地の中間東京で開催していただいたことで、自分を含め参加可能になった方も多数いたと思います。この集いを東京で開催運営してくれた同窓会事務局と顧問の方々のV(Vitality)とS(Service)、また会場に新潟の地酒50種類持込むムチャを企画されたO(Originality)に改めてお礼をさせていただきます。楽しいひと時をありがとうございました。



“旅先にて 地ビールと私”

VOSと共にあらんことを

株式会社 榎崎製作所勤務 郷 康則 (機械システム工学専攻1期)

この度、「同窓の集い 2019東京編」に参加し、恩師並びに同窓の皆様と新潟のお酒を酌み交わして邂逅を楽しませて頂きました。同窓の集いを発起し、準備された皆様へ、紙面をお借りして改めて喪心よりお礼申し上げますとともに、今回の集いに先立って開催された「情報交換会」でお話した、北海道の同窓会に関する活動内容をご紹介します。

北海道では、建設系6期の星野利幸氏が、所属し活躍されている建設コンサルタントの(株)ドーコンに毎年のように迎える実務訓練生との交流懇談会を開催してきました。これに、道内の建設系の同窓生等が参加するようになり、「技大OB会」が発足し、長く親睦を図ってまいりました。私も参加させていただき、このような絆を未来に向けてつなげていくことはできないかと考え、白地の旗布に、北海道の輪郭とVOSという文字を描いた「VOSフラッグ」を作成しました。ご存じのようにVOSは、川上初代学長が、「考え出す大学」を目指すために提唱された理念であり、Vは、VITALITY(活力)、Oは、ORIGINALITY(独創力)、Sは、SERVICES(世のための奉仕)を意味しております。「技大OB会」では、一人ひとり、活躍の地に足跡を印し続ける「VOSフラッグ」を掲げ、つい忘れがちである良き伝統を受け継ぐようにしています。

また、令和元年4月には、道内各組織の経営および指導層を対象とした「北海道長岡技大VOS会(小櫻義隆会長(S62博士))」を設立しました。この会は「会員相互の親睦、情報共有を厚くし、もってVOSの精神、技学の研鑽を促進し、会員の隆盛発展による北海道の未来社会への変化に対応した所属組織への貢献に資する」ことを目的とし、OB同士でもっと勉強をして、自分たちを高めて後輩たちに何かを伝えていこうと、会員が講演者となって年二回程度のピッチで学び合っています。

私も「スター・ウォーズ」の最新作で、フォースと共にあるジェダイが、力を合わせて邪悪なシス帝国を滅亡させたように、今後も北海道のギダイ関係者が力を合わせる旗印「VOSと共にあらんことを」を掲げる旗手でありたいと思います。最後に、同窓会におかれましては、これからも、全国各地の技大関係者がVOSを絆として強固につながり、会が益々発展することを祈念しております。ありがとうございました。



「VOSフラッグ」を掲げる長岡技大OB会
筆者:下段右から4番目

会員寄稿

青春の夢に忠実であれ。

株式会社本田技術研究所 渡辺 弘和 (機械創造工学専攻 2015年3月修了)

2020年…。時代・技術の大転換期といえるこの時期にこのような執筆の機会をいただき大変光栄に思います。これまでの振り返りとこれからについて少しお話させていただきます。

本学を修了してから5年が経ちました。いまだに技大での楽しかった研究生生活を思い出しますし、この先も忘れることはないでしょう。私はかねてから志望していたメーカーに就職し、熱望していたロボティクス領域の研究開発に携わることができました。そして現在は戦略部門でデータ分析を中心に取り組んでおり、責任とやりがいを感じる日々を過ごしています。

現在の私の礎となったのは、やはりロボティクス領域での経験です。私は入社してまもなく画像認識技術の開発に取り組み始めましたが、ここで私のスキル(=技能)不足を痛感することになりました。仕事で成果を出すためには当然知識として“技術”を身に付けることに加えて、それをカタチにする“スキル”が必要であったのです。画像認識技術や電子機器・センサーに関する知識、プログラミング能力など学ぶことが山積みでした。これを乗り越える後押しとなったのは、技大の実務訓練で得た経験でした。実務訓練にて学生時代に試行錯誤した経験は技術とスキルの双方を同時に学ぶ初めての機会であり、大学での勉強と仕事を繋ぐ貴重な経験であったと思います。

近年の画像認識領域という機械学習(AI)の応用が花形といえます。そのため私の専門領域は次第に機械学習領域へと広がっていきある時、その経験から社内外のビッグデータ活用に取り組み始めました。今思えばここが一番の転機であったと思います。国内外の事業所の方々の協力を得ながらの活動は大きな成果へとつながり、ブラジルでの成果発表に実を結びました。チームで取り組んだこの活動から、私は異なる専門性を持つ者同士が集まることで生まれる新たな可能性・価値を感じました。少し大きですが、普段とは異なる領域に踏み出すことで見つかる自分の可能性もあるものですね。



ブラジルでのお祭り騒ぎの社内イベントにて (最も左が著者)

最近はいままでとはまた違った視点で物事が見えています。戦略部門ではこれまでより高い視点が必要になるためです。正直私は戦略を考えるのは性に合わないのですが、周囲の方々から日々刺激を受けており成長を実感できる素晴らしい仕事ですね。私の令和時代の目標は自身の技術力を駆使して自己表現・アウトプットができる技術者になることです。やりたいことや夢、経験したことは新しい時代になっても変わらない自分だけのものだと思います。

昨年、中学生時代の私の将来の夢を見返してみるとそこには“ロボット開発者”と書かれておりとても驚きました。技術者という職業は自分の成長を実感できる素晴らしい仕事ですね。私の令和時代の目標は自身の技術力を駆使して自己表現・アウトプットができる技術者になることです。やりたいことや夢、経験したことは新しい時代になっても変わらない自分だけのものだと思います。

ともに令和時代を駆け抜けていきましょう！

時の流れに身をまかせ…ではなく、時代についていく

株式会社キタック 門口 健吾 (建設工学専攻(第19期) 平成12年(2000年)3月修了)

～はじめに～

私が大学を卒業し建設コンサルタント会社に入社し社会人となったのは、ほんの20年前のことです。「20年もだろ?」と言われそうですが、自分としてはまだまだ若いと思っていますし19年なんてあっという間に過ぎ去ったとしか感じていないので、この20年間は私にとっては「ほんの」なのです。とはいえ、年齢からすると責任ある立場であったり将来ビジョンを語らなければいけない側になっていたりと、さすがに20年前と同じようにというわけにはいきませんので、実際はそれなりの時間を経て変わってきたのでしょう。

この20年は、社会全体も業界も時代の流れとともに変わってきています。特にここ最近の劇的な変化は、変化のスケールの大きさに驚くのと何よりそのスピード感が圧倒的に数年前とは桁違いだと感じます。ここでは、私の視点でこの20年の変化の一端を綴ってみたいと思います。

～2次元図面から3次元モデルへ～

私の仕事は、建設コンサルタントの技術者です。建設コンサルタントは、社会資本整備のなかで主として調査・計画・設計等の業務において事業者の事業執行を支援し、パートナーとしてその役割を担っています¹⁾。仕事としては一般の方から見えにくいマイナーな業種ですが、やりがいと使命を持って働いています。ごくごく簡単にいうと、工事を行うための様々な資料を作っているのですが、その中の一つに設計図面があります。

高専、大学時代は製図学の講義があり、座学と図面作成実習があったように記憶しています。座学でCAD※1の説明くらいはあったと思いますが、実習はドラフター(製図台)を使っての手書きでした。とにかく手が痛くなる印象しか残っていません。私が会社に入ってすぐは、CADと手書きが混ざった感じの図面を作っていました。(当然そうではない会社もあったと思います。)CAD操作はまだ面倒で、さらにデータを時間かけて作っても成果は紙ベースでしたので、ある程度CADで作ったものを第二原図(トレーシングペーパー)に複写してその上に製図ペンで加筆して原図を作成していました。原図は透けていますので、消したくないものは裏面から書いたり、それなりにテクニクが必要でした。ほんの20年前の話です。

それからすぐにCALS/EC※2が本格化し電子納品の形態になり、CADによる設計が当たり前の世の中になりました。そうこうしていると、今から8年前頃からCIM※3の考え方が出現し、国交省では3次元モデルのBIM/CIMを原則化する方針に動いています。私はCivil User Group 2)というところで

BIM/CIM普及の活動を行っていますが、物事のスピード感が早く自身が置いて行かれないように必死で走っている状態です。BIM/CIMによる設計が当たり前の世の中は、すぐそこに来ています。そして、さらにその先も…。

～変わらないこと～

変わることがある反面、変わらないこともあります。私の場合、それは音楽が好きだということです。大学時代は大学吹奏楽部や市民楽団で活動していました(そちらの方がメインだったかもしれませんが)、20年たった今でも市民楽団に所属し楽器を続けています。とはいつても、20代～30代の頃のように活動することはさすがにできなくなってきていますが、細々でも何とかやっているのが現状です。ただ、やはりやる時には血がみなぎるというか、やるからには全力でとなってしまう、家族や周囲に迷惑をかけてしまいます。そのあたりは、20年前とほぼ変わっていません。

変わらずうれしかったなあと思うことは、大学吹奏楽部の定期演奏会が続いていること、学生時代に立ち上げた他大学との有志楽団「学生ウインド」が脈々と受け継がれ今では長岡市民の皆さんに親しまれるコンサートが開催されていることなど音楽に関わることは沢山あります。でもよく考えると、変わっていないと思っているのは私だけで、現役で頑張っている学生の皆さんの活動は常にシンカシ続けているのかもしれないですね。

～おわりに～

私の視点の一端ではありましたが、この20年の変化を綴ってみました。とりとめのない話になりましたことお詫言いたします。最後まで読んでいただいた方には、本当に感謝いたします。

- ※1 Computer Aided Designの略語でキャドと読む。
- ※2 Continuous Acquisition and Life-cycle Support / Electronic Commerceの略語でキャルスイーシーと読む。
- ※3 Construction Information Modeling/Managementの略語でシムと読む。現在は、Building Information Modelingの略語であるBIM(ビム)と合わせてBIM/CIM(ビムシム)と呼ぶ。世界的なスタンダードはBIMである。

(参考文献)

- 1)一般社団法人建設コンサルタンツ協会:<http://www.jcca.or.jp/work/introduction/act.html>
- 2)Civil ユーザグループ:<http://cim-cug.jp/>

学生と社会人の違いは、ルールが明確かそうではないか

仙台高等専門学校 総合工学科 助教 **鈴木 知真** (エネルギー・環境工学専攻(システム安全) 平成28年3月修了)

思い返せば、学生時代は評価されるための明確なルールがありました。「テストで100点を取る」などです。では、社会人のルールはなんでしょうか。もちろん、所属組織ごとに評価基準はあると思います。しかしながら、終身雇用制が終わりを迎え、おそらくほとんどの人が転職を経験するこれからの時代、その基準は果たしていつまでもルールたりうるのでしょうか。

現代は、産業構造やテクノロジー、あらゆるものの変化が激しい時代です。その職業が示す役割が変わることも珍しくありません。例えば、教員。これまでの教員は学生の「前」に立つ存在であり、一定のレベルに育てた学生を社会に送り出すことが目的でした。なぜなら、解決すべき課題が明確だったからです。あらかた解決し終えた今では、学生の「側」に立つ存在として挑戦を支援することが求められています。ひとつの職業でさえこれだけ変化がある中で、不変のルールを規定することは不可能だと思うのです。

日々の仕事に精一杯ついていくフェーズを終えて、上記のようなこと考えるようになりました。最近、イケてるビジネスパーソンのお話を伺う機会がたくさんありました。みなさん口を揃えて、「自分でルールを決めてしまえば良いじゃない」とのこと。言い換えれば、組織や職業といった枠組みを超えた、生き方・自

分のあり方の軸を持つということです。なるほど、この考え方がこれからの社会に必要な能力であり、幸せに生きる秘訣なのだと思います。

最後になりますが、私は仙台高等専門学校の教員をしています。主に「ロボティクスコース」を担当しています。ロボティクスコースでは、座学がありません。定期試験もありません。学生は自ら課題を設定し、その達成に向けて日々活動しています。ひとえに、自分のルールを決めるために。そんな彼ら彼女らの「側」に立ち、支援することが楽しくてしょうがありません。

学生のみなさまが、自分のルールを言語化し、幸せな人生を送れますことを心よりお祈り申し上げます。



今年度のパンフレット素材に使用される著者

近況報告

富士通株式会社 **青木 翔吾** (生物機能工学専攻 平成22年3月修了)

この度はこのような寄稿のご依頼を頂き、誠にありがとうございます。私が大学院を修了してから、まもなく10年となります。この機会に3つの話をさせて頂きたいと思います。

まずは習慣の話です。「今日も最高!!!!」これは、私が毎朝起きてから最初に口にする言葉です。客観的に見ると、どこかおかしくなったのではないかと心配されるかもしれませんが、しかし、言霊(ことだま)という言葉があるように、言葉には大きな力があると信じています。朝から、「今日はだるいわ」、「なんだか調子が悪いな」など、ネガティブなキーワードが発せられると、心もすぐに影響を受けて気持ちが下を向いてしまいます。そこで、今日一日をポジティブに過ごすために、一日の最初から今日という日を最高にしてしまうというのが、私の考えです。たまに、気持ちが追いつかず暗い気持ちで目覚めることもあります。あえて言葉として発することで、自分だけでなく家族や同僚などへもよい影響がありますし、一日にどんな辛い出来事があっても前向きに向き合えるようになりました。

2つ目は、信念の話です。私は、より社会貢献度の高い仕事で多くの人たちの役に立ちたいという志をもっています。これは、研究では成し得なかった社会貢献を、別の形で実現するぞ!という強い信念によるものです。私は本学修了後に内資系・外資系を問わず、さらに流通、半導体、医療機器と様々な会社の営業職としてチャレンジをしてきました。現在、私は多くの人々の命や健康・福祉に関わる医療業界で自身の能力を活かしたいと考え、大規模な公共システムを扱っているIT企業で働いています。そして、都内の国立大学病院、私大グループ病院の担当とし

て、電子カルテを中心としたヘルスケアソリューションの提案営業やプロジェクトのマネジメントをしております。電子カルテは医療従事者だけでなく、患者様やそのご家族、そして病院を取り巻く多くの人たちに関わるため、非常に責任が大きいですが、同じくらいのやりがいを感じて日々を邁進しています。

最後は、出会いと感謝についてです。研究室は、先生、先輩らと一日の大半を共有する特別な環境です。だからこそ出会いは非常に重要です。私が配属された研究室は、なかなか電気が消えないと言われていて、本当に深夜になっても消えないので最初は随分驚いたものです。それくらい熱心に、世界に先駆け未知の領域を明らかにすべく、先生、先輩方は研究に打ち込まれていました。その背中を見て多くのことを学ばせて頂きました。こと大変感謝しております。今、私が前向きに自分のやりたい仕事を頑張ることができているのは、間違いなく研究室で培われたベースがあったからです。在校生の皆様にも、感謝の気持ちを忘れず、研究室での学びを大切にしてください。本学の在学、同窓生の皆様のご多幸とますますのご発展を心より願っております。ありがとうございました。



同窓の集い2019 福田教授との再会

技大祭報告

佐々木千尋（電気電子情報工学課程4年）

こんにちは。第39回技大祭実行委員会委員長を務めました佐々木千尋です。今年度の技大祭について報告します。今年度の技大祭は9月14、15日に開催致しました。テーマであった「en-join」は「enjoy」と「join」を掛け合わせたもので、技大祭の開催にご協力して下さるすべての方々に参加して楽しんでいただきたいと思いますという思いを込めました。今年度は両日ともに天候にも恵まれ、3000人を超える多くの方々に足を運んでいただき、大盛況で終わることができました。

ここでは、好評であった技大祭の内容をご紹介させていただきます。まず、サークルや研究室による模擬店、演舞、体験コーナーなど、学内の参加者による多数の企画が開催されました。特に、留学生による「国際祭り」で開かれた、各国の郷土料理を振る舞う模擬店や伝統的な演舞などは今年度も非常に好評でした。他にも、毎年恒例のギダイジャーによるヒーローショー、ゆるキャラのクイズ大会、フレンドパークなど、お子様にも楽しんでいただける企画を多数開催致しました。また、今年度は新企画として体験型脱出ゲームも開催し、予約がいっぱいになるほどのご好評をいただきました。その他にも技大の高度な技術・研究を紹介する「研究室公開」「研究フォーラム」などの技大の特色を生かした学術系の催

し物や、川口町の方によるピザの販売やフリーマーケットなどの地域の方にもご協力いただいた催し物も好評でした。ゲスト企画では、新潟発アイドル・ユニットの「Negicco」の皆さんにトークショーとミニライブを披露していただき、非常に盛り上がりました。毎年恒例のビンゴ大会も豪華景品揃いで好評でした。

今年度の技大祭も多数の方々の協力によって無事に終わることができました。この技大祭の開催にあたりまして、同窓会からは同窓会費という形でお力添えをいただきました。各種企画の充実などの運営費に充てさせていただき、おかげさまで無事に技大祭を終えることができました。この場をお借りして厚くご御礼申し上げます。

次年度の技大祭は第40回という大きな節目を迎えます。次年度の技大祭では皆様により楽しんでいただけるような企画を多数ご用意する予定です。次年度もぜひ技大祭に足をお運びください。技大祭実行委員一同、心よりお待ちしております。



●2019年度会計報告

1. 一般会計収支 <自：2019年3月1日～至：2020年2月29日>

■収入

科目	金額(円)
入会金	6,003,982
雑収入	7,996
(公財)内田エネルギー科学振興財団 助成金	200,000
マラソン大会 参加費	71,000
同窓の集い 参加費	1,611,046
前期繰越金	11,767,750
合計	19,661,774

■支出

科目	内 訳	金額(円)
事業費	通信・運搬	65,516
	広報費	407,150
	助成・貸与	655,803
	活動経費	8,667,612
	小計	9,796,081
事務費	会議費	25,546
	雑費	16,665
	小計	42,211
新規積立		0
次期繰り越し		9,823,482
合計		19,661,774

2. 積立金会計収支 <自：2019年3月1日～至：2020年2月29日>

■収入

科目	金額(円)
前期繰越額(定期)	52,000,000
新規積立	0
合計	52,000,000

■支出

科目	金額(円)
積立取り崩し	0
次期繰越額(定期)	52,000,000
合計	52,000,000

2020年3月7日

会計担当 坂田 健太

2020年3月7日

会計監事 山田 康博
床井 良徳

●2020年度会計計画(案)

1. 一般会計収支 <自：2020年3月1日～至：2021年2月28日>

■収入

科目	金額(円)
入会金	6,000,000
積立金の取り崩し	0
雑収入	10,000
前期繰越金	9,823,482
合計	15,833,482

■支出

科目	内 訳	金額(円)
事業費	通信・運搬	100,000
	広報費	500,000
	助成・貸与	700,000
	活動経費	5,000,000
	小計	6,300,000
事務費	会議費	100,000
	雑費	50,000
	小計	150,000
新規積立		0
次期繰り越し		9,383,482
合計		15,833,482

2. 積立金会計収支 <自：2020年3月1日～至：2021年2月28日>

■収入

科目	金額(円)
前期繰越額(定期)	52,000,000
新規積立	0
合計	52,000,000

■支出

科目	金額(円)
積立取り崩し	0
次期繰越額(定期)	52,000,000
合計	52,000,000

2020年3月7日

会計担当 坂田 健太

編集後記

本会報について寄稿して頂いた同窓の皆さまに心から感謝申し上げます。昨年11月に同窓会発足後初めての同窓の集いを東京にて開催しました。この同窓の集いでは遠方からもたくさんの方々に来て頂きました。新潟の地酒を50本程用意し、参加した皆様にご満足頂けたかなと思います。また懐かしいお顔にお話しが尽きない様子で、次回の開催も希望される中、お開きとなりました。今後とも同窓会へのご支援ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。(坂田)

同窓会連絡先

長岡技術科学大学同窓会

〒940-2188 新潟県長岡市上富岡町1603-1

電話/FAX 0258-46-5505 e-mail dosokai@vos.nagaokaut.ac.jp

同窓会 HP : <http://nagaokaut.alumnet.jp/>Facebook ページ : <http://www.facebook.com/NutAlumni>

住所・勤務先等に変更がございましたら、同窓会HPにてログインしていただき、登録情報の変更をお願いいたします。